令和４年度 第１回 東御市文化財保護審議会 次第

日時　令和４年 12 月８日(木)午後３時～
場所　北御牧公民館 第２学習室

１　開　　会

２　あいさつ

３　審　　議
(1) 冊子「東御市の文化財」の市ホームページ掲出について

４　報　　告
(1) 羽毛山「安政の川除」の現地調査報告について

(2) 丸山晩霞作品について

５　そ の 他

６　閉　　会

冊子「東御市の文化財」WEB版 （現在作成中案）

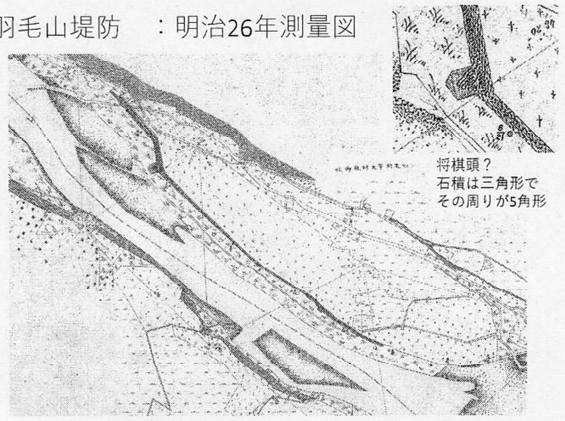
冊子「東御市の文化財」（編集・発行　東御市教育委員会　発行日　平成18年3月28日）の内容を、一部編集し掲載しました。

種　別	文化財の名称
有形文化財（建造物）	春原家住宅（国指定）
	海野宿（国選定）
	児玉家住宅（国登録）
	石造龕（県指定）
	木造阿弥陀三尊像（県指定）
	旧和学校校舎（県指定）
	廃海善寺石塔基礎
	祢津陣屋
	大日堂
	大石沢の目鏡橋
有形文化財（石造文化財）	百体観音石造町石
	縁切地蔵
	常田の剣持道祖神

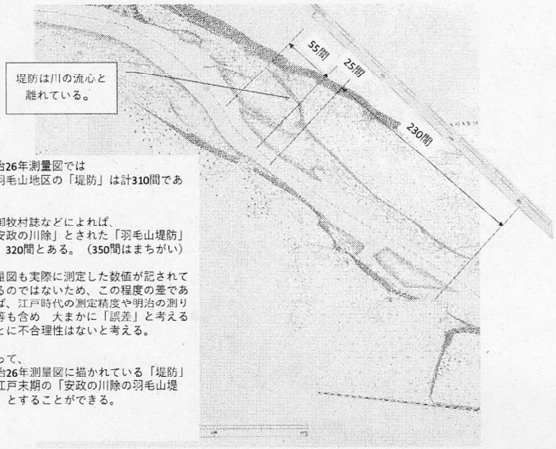
市民向け情報

生活の出来事
住民登録・戸籍・証明・マイナンバー
税金（市民向け）
国民健康保健・国民年金・後期高齢医療
ごみ・リサイクル・し尿
環境
ペットの飼育
消費生活相談
防災・災害
土地・住宅
道路・交通・防犯
上下水道
福祉・高齢者・介護
健康
教育・文化・スポーツ
文化スポーツ
生涯学習・公民館
青少年教育
文化財
人権・男女共同参画
農業
コミュニティ・協働
助成事業・申請書・募集
雇用・労働・勤労者福祉
新型コロナウイルス感染症に関連する情報一覧
消防・119番（救急・火災）

羽毛山堤防　：明治26年測量図



将棋頭？
石積は三角形で
その周りが5角形



堤防は川の流心と
離れている。

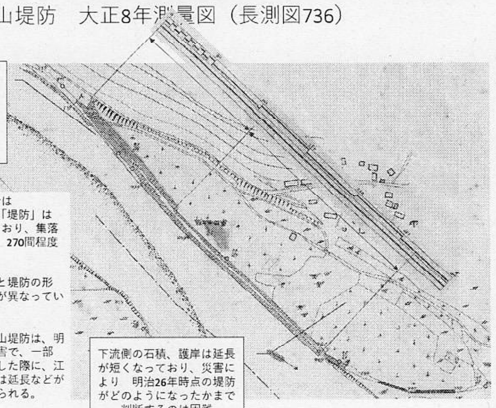
明治26年測量図では
羽毛山地区の「堤防」は計310間である。

北御牧村誌などによれば、
「安政の川除」とされた「羽毛山堤防」は　320間とある。（350間はまちがい）

測量図も実際に測定した数値が記されているのではないため、この程度の差であれば、江戸時代の測定精度や明治の測り方等も含め　大まかに「誤差」と考えることに不合理性はないと考える。

従って、
明治26年測量図に描かれている「堤防」は江戸末期の「安政の川除の羽毛山堤防」とすることができる。

羽毛山堤防　大正8年測量図（長測図736）



従来の石積堤防の川側に新たに石積護岸がつくられている。川の流れがその護岸に接している。

大正8年測量図では
羽毛山地区の「堤防」は「2重」になっており、集落側にある長さは　270間程度である。

明治26年測量図と堤防の形状、変化位置等が異なっている。

以上から、羽毛山堤防は、明治26年以降の水害で、一部が破損し、復旧した際に、江戸時代の堤防とは延長などが異なったと考えられる。

下流側の石積、護岸は延長が短くなっており、災害により　明治26年時点の堤防がどのようになったかまで判断するのは困難

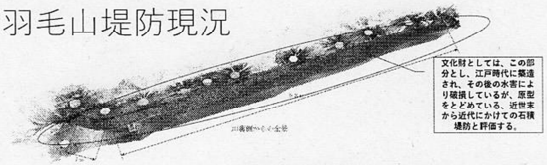
この石積が、江戸時代につくられた羽毛山堤防であると思われるが、大正8年測量図にあるように、明治26年測量図とは変化しているため、破損して復旧した状況とみられる。

この石積が、大正8年測量図の川側に出来ている護岸石積と考えられる。（下の写真からの連続）

この石積が、大正8年測量図の川側に出来ている護岸石積と考えられる。

羽毛山堤防（羽毛山地籍　明治44年）

羽毛山堤防現況



文化財としては、この部分とし、江戸時代に築造され、その後の水害により破損しているが、原型をとどめている、近世末から近代にかけての石積堤防と評価する。

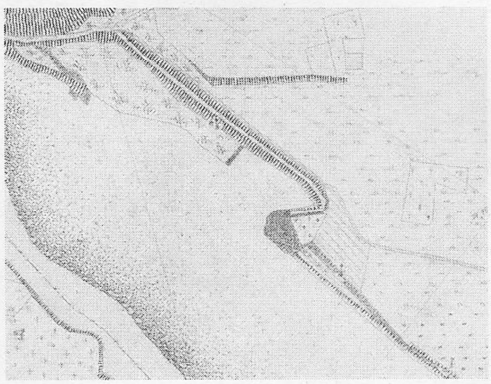
現在の羽毛山堤防の石積部分が
堤防直線部が　93m　斜め振り付け部7m　計100m
となっている

これは、明治26年測量図の　　計80間（約144m）
大正8年測量図の　　変化点まで110間（約198m）　とは相違している。

従って、大正8年以降にも水害により、石積堤防は破損し、復旧されて現在に至っていると考えるべきであろう。

また　羽毛堤防の石積部分は、上下には2段になっていたり、石積の方法に相違がある点が指摘されており
江戸時代に築造されて以降、何度か破損し、積み直している点と考えると整合する。

以上から、羽毛山堤防（石積堤防部）は、
明治26年までは当初の原型をとどめていたが、明治から昭和初期にかけて何度かの水害で、一部が破損し、復旧して現在に至っている石積堤防だと考えるのが妥当であろう。

この図の下段の石積は、大正8年測量図の川側に出来ている護岸石積とかんがえられる。

同時期につくられたされる下流の羽毛山村郷仕川原堤防にも頭と似た形状がみられる